

教科：音楽

「しあわせ運べるように」をリコーダーで演奏しよう！！

「しあわせ運べるように」を歌おう！！

指導要綱

学習指導要領との結びつき：〔第5学年及び第6学年〕

目標の一つより抜粋

「創造的に音楽に関わり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。」

⇒音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏できるようにする。

「しあわせ運べるように」をリコーダーで演奏しよう！！

準備物

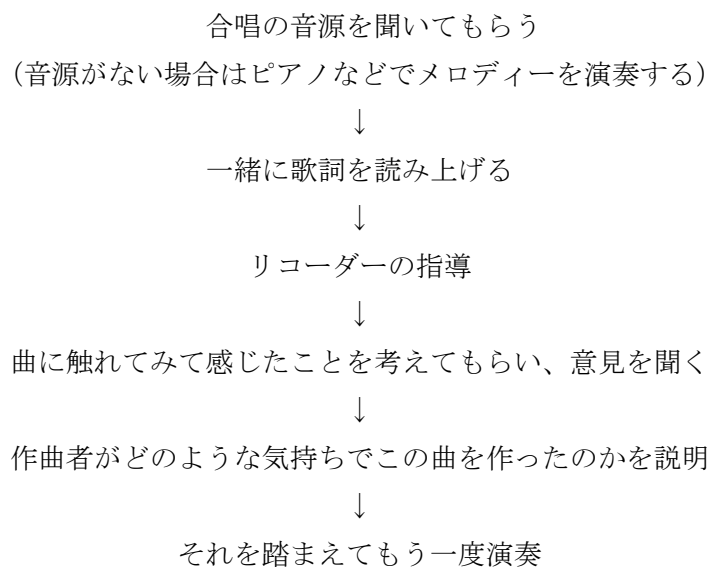
- リコーダー
- 児童用ワークシート（歌詞+リコーダー二重奏のできる譜面+感想を書くスペース）
- 指導用楽譜（児童用のものと同じ楽譜+ピアノ譜）

ねらい

阪神・淡路大震災から生まれた「しあわせ運べるように」の原曲を用いて、リコーダーの練習をする。また、歌詞や歌が生まれた経緯を伝え、歌が伝えるメッセージや背景にある震災への興味・理解を深める。

- ・音楽を奏でる技術の向上
- ・音楽からのメッセージを読み取る
- ・この曲が生まれたきっかけである阪神・淡路大震災への理解を深める

手順



参考

- 演奏に必要な音階

・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ : : :
ハ ニ ホ ヘ ト イ ロ ハ ニ ホ
(ド レ ミ ファ ソ ラ シ ド レ ミ)

- 使われる音符

全音符・二分音符・付点四分音符・四分音符・八分音符

- 使われる休符

付点二分休符・四分休符・八分休符

- 使われる音楽記号

ト音記号・縦線・終止線・フォルテ・メゾフォルテ・メゾピアノ・四分の四拍子・クレッシェンド・デクレッシェンド・テンポ表記・ブレス・

「しあわせ運べるように」ができるまで

この曲の作者である臼井真さんは、小学校で音楽の先生をしている方で、震災当時は神戸市立吾妻小学校に勤めていた。生まれ育った東灘区の自宅は全壊。しかも二階へ上がるのがあと数分遅れていれば、命は助からなかったかもしれないという。震災から二週間になるうとしていた時、避難先のいとこの家でテレビを眺めていると、三宮のビル解体の映像が映った。その時、初めて三宮の様子を目にし絶句した。胸がつまり、たまらずそこら辺りあった紙と鉛筆を手にして、短い詩を走り書きした。歌が降ってきた。詩の横に、ドレミをカタカナで記していた。こうしてできた歌が「しあわせ運べるように」だった。耳にして涙を流す人。拍手を送ってくれる人。自分の作った歌が人の心に届いたのだと思うと、救われた。「詩を走り書きしたあの時、音楽の神様がそばにいてくれたのかもしれない」「音楽には見えないうちがある。人を励まし、一緒に喜んでくれる。心の友だちだ」と話す。

朝会や避難者の人たちの「春を呼ぶつどい」などで、同小の児童が歌い、学校内外で大きな反響を呼び、ロコミや報道を通じて被災地に広がっていった。現在は新潟の山古志やイラシなど様々な被災地でも歌われている。

『子どもたちの歌声ならもう一度このまちを復活させることができる、力がある。子どもたちの歌声とともに、震災時のことを改めて思い、伝えるきっかけとなれば。時間の流れのなか、いろんな思いをこめて歌ってもらえば…』という想いのこめられた歌である。

「しあわせ運べるように」を歌おう！！

準備物

- 児童用ワークシート（歌詞＋リコーダー二重奏のできる譜面＋感想を書くスペース）
- 指導用楽譜（児童用のものと同じ楽譜＋ピアノ譜）

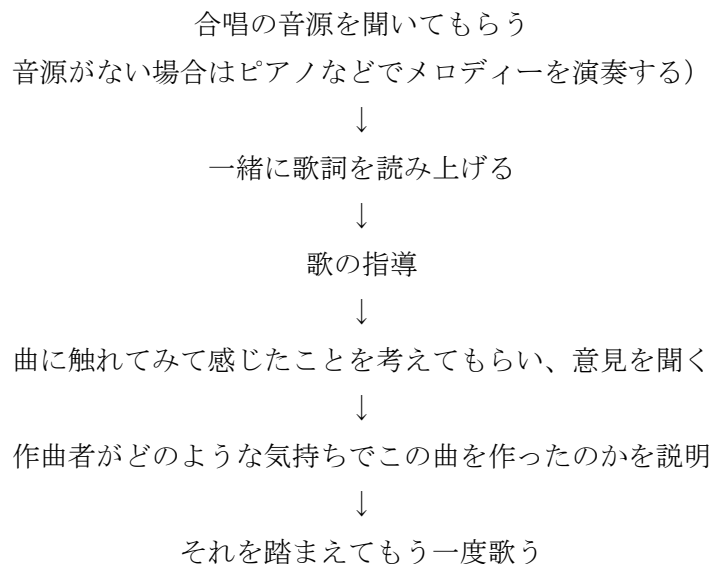
ねらい

阪神・淡路大震災から生まれた「しあわせ運べるように」の松下行馬さんの編曲を用いて、歌の練習をする。また、歌詞や歌が生まれた経緯を伝え、歌が伝えるメッセージや背景にある震災への興味・理解を深める。

- ・音楽を奏でる技術の向上
- ・音楽からのメッセージを読み取る

- ・この曲が生まれたきっかけである阪神・淡路大震災への理解を深める

手順



参考

- 使われる音符
全音符・付点二分音符・二分音符・付点四分音符・四分音符・八分音符
- 使われる休符
四分休符・四分休符・八分休符
- 使われる音楽記号
ト音記号・縦線・終止線・フォルテ・メゾフォルテ・メゾピアノ・四分の四拍子・クレッシェンド・デクレッシェンド・テンポ表記・ブレス

「しあわせ運べるように」ができるまで

この曲の作者である臼井真さんは、小学校で音楽の先生をしている方で、震災当時は神戸市立吾妻小学校に勤めていた。生まれ育った東灘区の自宅は全壊。しかも二階へ上がるのがあと数分遅れていれば、命は助からなかったかもしれないという。震災から二週間になるうとしていた時、避難先のいとこの家でテレビを眺めていると、三宮のビル解体の映像が映った。その時、初めて三宮の様子を目にし絶句した。胸がつまり、たまらずそこら辺りあった紙と鉛筆を手にして、短い詩を走り書きした。歌が降ってきた。詩の横に、ドレミをカタカナで記していた。こうしてできた歌が「しあわせ運べるように」だった。耳にして涙を流す人。拍手を送ってくれる人。自分の作った歌が人の心に届いたのだと思うと、救われた。「詩を走り書きしたあの時、音楽の神様がそばにいてくれたのかもしれない」「音楽には見えないうちがある。人を励まし、一緒に喜んでくれる。心の友だちだ」と話す。

朝会や避難者の人たちの「春を呼ぶつどい」などで、同小の児童が歌い、学校内外で大きな反響を呼び、ロコミや報道を通じて被災地に広がっていった。現在は新潟の山古志やイランなど様々な被災地でも歌われている。

『子どもたちの歌声ならもう一度このまちを復活させることができる、力がある。子どもたちの歌声とともに、震災時のことを改めて思い、伝えるきっかけとなれば。時間の流れのなか、いろんな思いをこめて歌ってもらえば…』という想いのこめられた歌である。

しあわせ運べるように

作詞/作曲：臼井 真

編曲：岸本 くるみ/野口 万梨子

一、地震にも負けない
強い心を持って
亡くなった方々の分も
毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を
元の姿に戻そう
支え合う心と明日への希望を胸に

響きわたれ ぼくたちの歌
生まれ変わる神戸の街に
とどけたい 私たちの歌
しあわせ運べるように

二、地震にも負けない
強いきずなをつくり
亡くなった方々の分も
毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を
元の姿に戻そう
やさしい春の光のような未来を夢み

響きわたれ ぼくたちの歌
生まれ変わる神戸の街に
とどけたい 私たちの歌
しあわせ運べるように

♩=88 *mp*

ソファ ミ ファミファミレ ド ラシ ド ドドドレシラ
じし ん にもまけな い つよ い こころをもっ
じし にもまけな い つよ い きずなをつく

mp

ソ ソ ミ ファ

mf

ソ ソ ソ ラ ファミレレミファ ソ ミソド ラシ ドドドドドドシラ
て なく なっ たかたがたの ぶ んーも まい にちをたいせつに
り なく なっ たかたがたの ぶ んーも まい にちをたいせつに

mf

ミ ファ ソ ファ レ ミ ソ ファ ファ

mp

シシドドレ ソファ ミ ファミファミレ ド ラシ ドドドドドドシラ
いきてゆこう きず つ いたこうべ を もと のすがたにもどそ
いきてゆこう きず つ いたこうべ を もと のすがたにもどそ

mp

ソ ラ ソ ソ ソ ミ ファ

mf

ソ ソ ラ ファミレレミファ ソ ミソド ラ シ ド レ ラ シ
 う ささ え あうこころと あし たへのきぼ う を む ね
 う やさ しいはるのひかり の ようなみら い を ゆ め

mf

ミ ファ ソ ファ ファ ミ ソ ファミ ファ ファ ファ

f

ド ソ ドドレミレド シ ソラシ ソ ラララソファファミファ
 にー ひ びきわたればくた ち のうた う まれかわるこうべ
 みー

f

ミ ミ ソ ファ ファ ラ ラ

ソ ソラソ ソ ラ ファミレレミファ ソソミソド ラ シ ドドドドレドシ
 の まちに と ど けた いわたし たちのうた しあ わせはこべるよう

ミ ファ ファ ミ ミ ソ ファ

ド
レ

ミ



※この歌を聞いたり、演奏したりして感じたことを書いてみましょう!!

[]

